

令和6年度
おおいた地域連携プラットフォーム

外部評価報告書

令和7年6月作成

● 目次

- I. 令和6年度事業外部評価に係る概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - 1 外部評価委員会委員
 - 2 外部評価の流れ
 - 3 評価方法

- II. 項目別評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - 1 「地域交流・課題検討部会」
 - 2 「教育プログラム開発部会」
 - 3 「地域人材創出部会」
 - 4 「プラットフォームの運営体制について（総会・事業推進本部・協働事務局）」
 - 5 「総括」

- III. 評価まとめ／外部評価を受けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
 - 1 評価まとめ
 - 2 外部評価を受けて

I 令和6年度事業の外部評価に係る概要

1. 外部評価委員会委員

委員長	大森 昭生	共愛学園前橋国際大学 学長
委員	衛藤 博至	大分県自治人材育成センター 常務理事兼事務局長
委員	阿知波 孝典	FIG株式会社 取締役常務執行役員
委員	森 永 啓	株式会社日本政策投資銀行 大分事務所 所長代理

2. 外部評価の流れ

① 令和7年6月2日(月)

令和7年度第1回外部評価委員会開催(対面およびTeamsによるハイブリッド開催)

- ・ おおいた地域連携プラットフォーム協働事務局から、外部評価委員に対し、令和6年度おおいた地域連携プラットフォームの事業について説明
- ・ 令和6年度事業の評価方法の説明
- ・ 今後のスケジュールの確認

② 令和7年6月2日(月)～6月9日(月)

- ・ 各委員による評価シートの作成
- ・ 各委員は、作成した評価シートを、おおいた地域連携プラットフォーム協働事務局に提出

③ 令和7年6月13日(金) 評価結果の取りまとめ・確定

- ・ 各委員からの評価をおおいた地域連携プラットフォーム協働事務局にて取りまとめ、各委員へ報告
- ・ 令和6年度事業に係る外部評価の確定

3. 評価方法

令和6年度の事業実績について、各委員は、1「地域交流・課題検討部会」、2「教育プログラム開発部会」、3「地域人材創出部会」、4「プラットフォームの運営体制について(総会・事業推進本部・協働事務局)」、5「総括」の項目ごとに、以下の基準により評価した。

※評価基準：S：特筆すべき進捗が見られる A：順調に進んでいる

B：やや順調に進んでいる C：やや遅れている D：遅れている・未実施

そして、各委員の評価をもとに、外部評価委員会としての各項目の総合評価は、以下の方法により判定した。

※次式により評価点を算出し、以下のとおり総合評価を決定

$$\text{評価点} = (4.0 \times \text{S 評価の数} + 3.0 \times \text{A 評価の数} + 2.0 \times \text{B 評価の数} + 1.0 \times \text{C 評価の数}) \div \text{評価委員の数}$$

<小数第2位を四捨五入>

評価点	≥ 3.5	≥ 2.5	≥ 1.5	≥ 1.0	< 1.0
総合評価	S	A	B	C	D

II 項目別評価 ※評価者が特定されない形でまとめている。

1. 「地域交流・課題検討部会」 ☆総合評価：A (評価点：3.25)

(S 評価：1 名、A 評価：3 名、B 評価：0 名、C 評価：0 名、D 評価：0 名)

<委員からのコメント（評価ごと）>

◇評価：S

- ・ 毎年、多くの課題が提出されていることが素晴らしいです。予算の関係も含め、すべての課題を採択・マッチングできないのが歯がゆくも感じています。今後、規模の拡大の可能性がないのか、検討していただければと思います。
- ・ また、既存の事業のみでも充実しているところ、二つもの新規事業を立ち上げていること、また、それが県の補助事業であることは特筆すべきことと思います。

◇評価：A

- ・ 企業連携創出支援事業の新設や各事業の成果報告の工夫等により、産学官連携の契機となる取組が一層強化され、着実に成果が上がっていると考えます。引き続き事業の意義や成果の周知・共有を図りながら取組を広げていかれることを望みます。
- ・ 11 市町、18 案件と活発な取組ができている。
- ・ R7 には R6 にはなかった佐伯市の案件もあり、2 年連続で名前が出なかった津久見市、臼杵市、豊後高田市、玖珠町、日田市の提示または逆提案へのアプローチを検討願いたい。

2. 「教育プログラム開発部会」 ☆総合評価：S (評価点：3.5)

(S 評価：2 名、A 評価：2 名、B 評価：0 名、C 評価：0 名、D 評価：0 名)

<委員からのコメント (評価ごと) >

◇評価：S

- ・ 文科省に採択されたりカレント教育に係る事業は、地域のニーズに応えたプラットフォームならではの事業であり、すでに認証者を輩出するなど、実施内容は高い評価に値するものと考えます。今後も地域人材創出部会と連携して企業ニーズの把握、事業効果の検証等を行いながら計画的に教育プログラムの内容、対象等を拡充し、地域を担う人材の育成・確保を推し進められることを期待します。
- ・ おおいた共創士やリカレント教育等、複層的な取り組みが進められている。
中長期的な人材の地域定着に向けては、新卒からの定着を求めるだけでなく、ライフステージに応じUターンを選択するキャリア形成等も学生に提案していくべきではないかと思われる。

◇評価：A

- ・ すべての取り組みが素晴らしいものであることは言うまでもなく、さらにリカレントプログラムは継続してフェーズ2に入っており、本来であればS 評価でもよい内容と思います。そのうえでA 評価としたのは、昨年も指摘した通り、単位互換科目という位置づけから連携開設科目へと移行することに期待してのことです。
- ・ おおいた共創士 21 名の認定をはじめ充実した活動が実施されている。
- ・ AI の進歩は目覚ましく、AI 活用した活動を継続してもらいたい。
- ・ 最近では、社会に出て3 年未満に退職する新卒者も多く、人材育成とともに社会人としての基礎知識を考えるカリキュラムも検討願いたい。

3. 「地域人材創出部会」 ☆総合評価：A (評価点：3.00)

(S 評価：0 名、A 評価：4 名、B 評価：0 名、C 評価：0 名、D 評価：0 名)

<委員からのコメント (評価ごと) >

◇評価：A

- ・ 取り組み自体はしっかりなされていると思います。とりわけ、新たに地域包括ケアシステム人材育成事業を独自に開始されたことも高い評価に値する特筆すべき事項と言えます。
- ・ そのうえで、A 評価としたのは、どうしても地元就職率が伸び悩んでいるためです。もちろん、PF だけでなんとかできる課題ではありませんが、評価委員会議でも出されたように、教育プログラムにおいても、企業と実践的にかかわる内容のものを増やす努力が必要かと思います。
- ・ 新規に立ち上げた地域包括ケアシステム人材育成事業は、今後深刻化が懸念される地域課題に対する有用な取組の一つと考えます。引き続きワーキンググループ構成員の特色や強みを活かした事業展開を望みます。
- ・ 県内定着率（進学・就職）の向上に関しては、先の外部評価委員会でも話題になりましたが、インターンシップや初等中等教育段階でのアプローチなどが有効と考えられるため、そうした観点から企業等と学生等との交流促進策（インターンシップ参加学生へのインセンティブの付与、企業等による出前授業の拡充等）をプラットフォームとして検討できないでしょうか。
- ・ 県内人材の定着率は大分県に拠点をおく企業にとっては、大きな課題である。
- ・ 特に理科系エンジニアの県外流出割合は高く、2024 シゴトフェスタ(参加者 289 名、34 職種、51 社)のような官民の接点となるような取組を今後も期待する。

4. 「プラットフォームの運営体制について（総会・事業推進本部・協働事務局）」

☆総合評価：A（評価点：3.25）

（S 評価：1 名、A 評価：3 名、B 評価：0 名、C 評価：0 名、D 評価：0 名）

<委員からのコメント（評価ごと）>

◇評価：S

- ・ 国立大学（大分大学）が本部長職を担いつつ、各部会を産官学がそれぞれ担うこのスキームは全国プラットフォームの見本となるものです。
- ・ さらに、事業運営費も含めて、多額の予算が、行政から拠出されていることも特筆に値します。

◇評価：A

- ・ 組織の目的や目指す姿が明確化され、事業推進本部、協働事務局の下、多岐にわたる事業が年間を通して円滑かつ効果的に遂行されていることがうかがえます。
- ・ 様々なステークホルダーへのタイムリーで分かりやすい情報発信に今後も取り組まれることを望みます。
- ・ 地域の潜在的に持つポテンシャルを踏まえ、IT 化をはじめとした大きな時代の変化によりニーズは多様化してきており、その中で多岐にわたり素晴らしい活動をしていると評価します。今後は時代と環境の変化を取り込んだより先進的な活動をさらに期待します。
- ・ （※例えば、TSMC(熊本県への進出などによる外部環境の変化など)

5. 「総括」 ☆総合評価：A (評価点：3.25)

(S 評価：1 名、A 評価：3 名、B 評価：0 名、C 評価：0 名、D 評価：0 名)

<委員からのコメント (評価ごと) >

◇評価：S

- ・ 昨年の評価において、全国的な露出に期待する旨を申し上げました。一年後の今、まさにそれが現実のものとなっていることに感銘を受けます。全国規模のマスコミへの登場、文科省をはじめとする全国組織からのヒアリングの要請や視察の依頼など、素晴らしい状況が生まれていると認識しています。今後、ますます注目をされ、そのことにより全国の産学官連携のモデルとなっただくことを期待します。
- ・ その際、知の総和答申で示された地域構想推進プラットフォーム（仮称）に移行することの検討や、より強固な結びつきにより教育の質の向上と大分地域における大学の適正規模と大学へのアクセスを両立させる取り組みも視野に入れた検討に入っただけるとよろしいかと存じます。ぜひ、第一号として、全国にその在り方を示していただきたいと期待しています。また、その先に、地域研究教育連携推進機構（仮称）への展開も期待しています。

◇評価：A

- ・ 全国的にみても優れた取組が継続して展開されていることを再認識しました。（外部評価委員会にて、本年2月の中教審答申を受けた組織の見直しも考えられる旨お聞きしましたが、）引き続き、地方創生につながるオール大分での取組を積極的に推進されるよう要望します。
- ・ 地域一体となった取り組みが進められており、継続的な事業のアップデートにより、さらに効果的な取り組みが進められていくことを期待したい。
- ・

Ⅲ 評価まとめ／外部評価を受けて

1. 評価まとめ

「Ⅱ 項目別評価」を下記のとおり一覧表にまとめた。

No.	評価項目	総合評価 (評価点)	備考
1	地域交流・課題検討部会	A (3.25)	・S評価1名 ・A評価3名
2	教育プログラム開発部会	S (3.5)	・S評価2名 ・A評価2名
3	地域人材創出部会	A (3.00)	・A評価4名
4	プラットフォームの運営体制について (総会・事業推進本部・協働事務局)	A (3.25)	・S評価1名 ・A評価3名
5	総括	A (3.25)	・S評価1名 ・A評価3名

2. 外部評価を受けて

まずは、今回の評価結果を真摯に受け止めたい。指摘をいただいている項目はもちろん、一定の評価をいただいた事業についても、プラットフォームのさらなる発展のために、事業協働機関一丸となって、積極的な取組に努めたい。